

アメリカと対等に渡り合うフィリピンに学べ



辺野古沿岸部で土砂投入
(共同通信社機から)

中国の存在感と対中警戒網の緊張が高まるにつれ、日本の防衛と安全保障への関心が高まっている。

ニッポンの防衛

米中の狭間を
生き抜く

猿田 佐世編著

ワシントンで長年ロビ
ー活動に従事した本書の
編著者。

対米追従一辺倒の日本
外交を少しでも軌道修正
すべく活動する「新外交
イニシアティブ」の代表
となった著者はフィリ
ピンの安全保障策に注目す
る。

横暴で「ミニ・トラン



の狭間を生き抜く
米中
対米追従一辺倒の日本外交を少しでも軌道修正すべく活動する「新外交イニシアティブ」の代表となった著者はフィリピンの安全保障策に注目する。

フィリピン政府がアメリカに地位協定の破棄を通告したことで閉鎖となつた。

昨年7月には、新型コ
ロナ禍対策や対中警戒網
の強化の関連などで完全
破棄は延期されたが、か
つては基地貸与国という
受動的立場だったフィリ
ピンはアメリカと対等に
渡り合う当事国となった
のだ。
そのフィリピンに対す
る最大の援助供与国が日
海軍基地は、2020年、
点だったスービック湾の
アジア最大の米海軍の拠
点だったスービック湾の

220125日刊ゲンダイ

本。しかも外交の中心は米国に対し、フィリピン（米・中どちらかを選ばない日本政府こそ、フィリピンに学ばなければならない）を合言葉に、対米対中両方とも、ASEAN諸国は、最近ではさまざまある立場を重視し、一辺倒を拒んでいる。だろ。でも、ニューシールド、せよと反発し、「Don't make us choose」の言葉をいつまでも解決でき（0円）